

## 篠山市アグリ産業クラスターに参加する有限会社みたけの里舎の取組み

～農業生産法人が目指す高付加価値化に向けた活動と地域連携～

### 1 はじめに

近年、我が国の食を取巻く環境は、景気低迷、原料価格の高騰など多様な課題が見られる。とりわけ、昨今の食品事故などの影響により、海外原料・輸入食品に対する消費者の目は厳しさを増し、安全で安心な商品を求める消費者の声は日に日に増加している。

食料産業クラスターをはじめとした地域連携による産業活性化の取組みや、2008年7月から始まった農商工等連携などの取組みは、我が国の食と農を結ぶ新たな施策として推進されている。これに伴い、地域における各事業者間での連携の取組み機運には高まりが見られ、国が推進する事業に留まることなく、都道府県、市町村もしくは任意の枠組みなど、多くの事例が存在し、「連携」をキーワードとした活動は、広く国内に浸透してきていると考えられる。

兵庫県では、農林水産省が進める食料産業クラスターの取組み(兵庫県食料産業クラスター協議会<sup>1</sup>)以外にも、たつの市の紫黒米クラスター<sup>2</sup>など、市町村を単位とした食料産業クラスター以外の取組みなども多く、これら各種の地域の枠組みは、濃淡はあるものの、何らかの形で情報もしくは人の連携を講じ、相互に影響を与え合っているといえる。

今回は、昨年度より社団法人食品需給研究センターがアドバイスを行ってきた「篠山市アグリ産業クラスター」にスポットをあて、特に、その参加者である農業生産法人「有限会社みたけの里舎」に着目することで、農業生産法人が行う農産物加工の取組みを紹介するとともに、地域の生産者が行う農産物加工の取組みが、地域クラスターの推進に寄与する要因について分析を行うこととした。

#### 1.1. 篠山市の特徴

篠山市は、1999年4月に近隣の4町が合併し誕生した。現在の人口は約46,000人。地方の小規模都市である同市は、過疎化が進み、若年層の流出による人口の減少、農業従事者の高齢化の進展という課題を抱えている。

近隣の商圏としては、50km圏内に大阪、神戸、京都などの大都市があり、その立地を活かした新たな市としての政策が求められている。

市の農業生産は、黒豆、丹波栗、山の芋、松茸などが特徴のあるものとして域外にも認知され、特に黒豆(他との差別化を図り“丹波篠山黒豆と呼称”)はブランド価値のある商品として取り扱われている。農業が地域経済に占める割合は低く、市の総生産額の2%を占める程度。農産物以外では、かね徳(加工食品)、ケンミン食品(冷凍ビーフン)、フジフレッシュフーズ(食品製造)、黄桜、大関(酒類)など、中規模食品メーカーの工場進出も見られる。

観光資源は地域特産品以外にも、古くからの町並みといった景観、周辺を小高い山に囲まれる地形など、さまざまなポテンシャルを有し、主に大阪、神戸、京都など大都市圏からの日帰り客を中心に、年間300万人の観光客が訪れる。

#### 1.2. 篠山市アグリ産業クラスター

篠山市では、2006年4月、市役所政策部内に企業振興課(現:まちづくり部 企業振興課)を設置、課長、課長補佐、主査の3名の体制で地域産業再生に向けた施策検討等を開始した。同課では、2006年度に「篠山市産業再生&企業誘致実施方針書」を作成し、「地域資源の有効な利活用」、「篠山市アグリ産業クラスター構想の取組み」、「企業誘致施策の展開」といった3点からなる基本戦略を構築している。

その中で、「地域資源の有効な利活用」に向けた取組みとしては、ブランド力のある丹波篠山黒豆を中心に、丹波栗、山の芋、松茸などの原料を用いた加工品製造



篠山市の風景(冬の黒豆畑)

<sup>1</sup> 参照:「兵庫県食料産業クラスターの概況」食料産業クラスターの波動 p30 平成19年度食料産業クラスター促進技術対策事業(社)食品需給研究センター

<http://www.fmr.or.jp/foodcluster/main/torikumi/06kinki/index.html>

<sup>2</sup> 参照:「たつの市紫黒米生産者・加工者連絡協議会の取組み」他 食料産業クラスターの波動 p33～37 平成19年度食料産業クラスター促進技術対策事業(社)食品需給研究センター  
<http://www.fmr.or.jp/foodcluster/main/torikumi/06kinki/index.html>

など、付加価値の向上、「篠山市アグリ産業クラスター構想」では、同市の地域特産物に着目し、食品加工を中心とした関連産業による新たな商品開発を行い、その原料生産、製造、流通、販売における企業・業種の連携を図ることを目的としている。

2006年度は、「篠山市アグリ産業クラスター構想」について、市役所内部での合意形成を、産業経済部商工観光課、農政課、丹波ささやま黒まめ課など関係課との間で図り、2007年度からは、地域の生産者、食品製造業者などが参加した形で、構想実現に向けた具体的な検討が行われている。



市役所各課の合意形成に向けた「篠山市アグリ産業クラスター研究会」の様子

### 1.3. 農業生産法人有限会社みたけの里舎

みたけの里舎は、1992年7月、農業生産法人として活動を始めた。業務は、生産（米、大豆、野菜）田植えや稲刈りなどの作業受託、地域農産物を利用した加工が中心だ。特に、米、黒豆、白大豆はエコファーマーの認定を受け、化学肥料、化学農薬の低減を進めている。

法人の構成員は5名（代表：石田 成正）、また加工施設の作業従事者として8名を雇用している。経営面積は、米（10ha）、白大豆（2.5ha）、黒豆（1.5ha）、野菜類（30a）の他、GCP（グラウンドカバープランツ）苗（約5万ポット）などがある。

生産の中心は米と地域ブランドを活かした黒豆および白大豆であるが、これらに頼らない、柔軟な農業を模索している。現在は小規模ではあるが、西洋トウガラシ（パレペニョ、ハバネロ）や京野菜など、地域の域を超えた新しい農産物にもチャレンジしている。

1992年の設立から、主に生産事業と作業受託事業を展開してきたが、2008年5月、法人設立当初からの目標だった農産物加工施設「舎良房（しゃらぼー）ささやま」を建設、農産物加工に進出している。

石田代表は、「篠山の野や山にある豊富な食材や、篠山で生産された農産物に昔の知恵を生かし、工夫を加えることで付加価値化を目指す。地元の産物にこだわった



農産物加工施設「舎良房（しゃらぼー）ささやま」と施設内

種々の食材を募り、新しい篠山産の商品を展開してみたい」と言う。

商品開発は、白大豆、黒豆、切干大根など地域農産物の乾燥加工品のほか、調理加工を施したサルサソース（地域のトマト、たまねぎ、パレペニョ）、ジャム類、菓子類など多様だ。

生産事業の主要を占める米は、主に餅に加工して販売しているが、そのほかに、米粉も自社で製造したいと考えている。しかしながら、現状では、粉碎装置など、米粉製造に係る装置を持っていないため、米粉だけは、製造を委託している。このような製造加工を委託で受注している業者は、県内に少なく、隣県（大阪府）の気流粉碎機を持つ業者に、1kgあたり300円程度でお願いしている状況である。

商品の販売先は、地域内のJA丹波ささやま及び直売所（味土里館：篠山市東吹942-1）宿泊施設（王地山公園ささやま荘：篠山市河原町474-1）観光施設（大正口マン館：篠山市北新町97）、地域外では、大阪木津市場のほか、神戸元町商店街で毎月行われている地産地消イベント（水曜日）出展を行っている。

販売価格であるが、サルサソースを例にとれば1瓶650円と高めだ。しかし、「地域の素材にこだわり、地域の「おかあさん」が丹精込めて作った無添加の商品は、味、品質など、消費者にも認められ、少々高めでも買っていたいております。これまで作ってきたものは在庫として、残ったことはありません」と石田代表は話す。



「舎良房（しゃらぼー）ささやま」のサルサソース



有限会社みたけの里舎 石田代表（写真左）  
と舎良房で働く北野さん

## 2 クラスタ推進に係る農産物加工の寄与

### 2.1. 地域食料産業クラスターとの関わり（現状整理）

兵庫県には、農林水産省の施策で展開する「兵庫県食料産業クラスター協議会」がある。今回紹介した「篠山市アグリ産業クラスター」は、現在のところ県の協議会との強い連携はなく、むしろ篠山市を中心とした小さなもの作りクラスターといった枠組みだ。その一方で、同市丹波篠山黒豆め課（2008年「丹波ささやま黒豆め課から名称変更」）では、別途、県の協議会との連携により、丹波篠山黒豆の新たな展開について検討を行っている。

みたけの里舎は、このうち「篠山市アグリ産業クラスター」の参加者として、地域農産物の付加価値向上を検討している。上記を整理して見た場合、今回、紹介した農産物加工の取組みについては、市の取組みや県協議会による取組みなど、多くの機会が同社の周辺にあるといった見方もできる。

### 2.2. 農業生産法人が行う加工の強み・弱み

農業生産法人であるゆえ、自分たちが生産した地域の農産物について、自信を持った加工を施し販売するという取組みは、現在の安全で安心できる商品を購入したいという消費者心理への、力強い訴求力を持っているといえる。石田代表が言われるように、「地域の「おかあさん」が丹精込めて作った無添加の商品」と「在庫として残ったことがない」という現実は、まさに現在の消費者ニーズとマッチした結果である。

しかしながら、仮にこの取組みが進み、ある程度纏まった量を供給しなければならないといったケースにおいては、やはり現状の規模、システムでは限界がある。

「篠山市アグリ産業クラスター」の概念には、地域特産物に着目し、食品加工を中心とした関連産業による新たな商品開発を行い、その原料生産、製造、流通、販売を行う事業者などとの連携を図るといったことが掲げられている。このようなケースを想定したシステム作りこそ、クラスターとして地域連携を講じてゆくための、一つのきっかけになるのではなかろうか。また、そのとき

こそ、みたけの里舎及び舎良房が進めてきた活動も、地域活性化のための取組みの一翼として、より一層の推進が図られてゆくものと思われる。

### 2.3. 地域のクラスターの展望

篠山市で進むクラスターでは、やはりブランド価値の高い「丹波篠山産の黒豆」を中心的なテーマとする考え方があられる。確かに周辺の情報を聞くとところでは、生産は、当該地域ではあるが、加工は地域内に技術を持つ企業が少ないことから域外で行い、加工品の販売は、再び篠山市内で行っているという。つまり、加工により得られる付加価値は、域外に落ちるといった現状である。

既にブランド化が進み生産・流通基盤が強固なものをテーマにし、更に価値を高めてゆくための取組みも一つの方法ではあるが、みたけの里舎が取組むように、地域にある他の産品にも目を向け、むしろ、その製品の加工や、加工のための技術力向上に資するの、地域を総じた大きな対策になるかも知れない。

加工技術に着目すれば、米粉を製造する気流粉碎の技術は、現在、地域外の企業に委託しているのが現状だ。このような技術をハンドリングも含め地域に整備することで、地域事業者の基盤強化や付加価値向上に寄与するの、一つの方向性といえる。

#### 【お問い合わせ】

篠山市アグリ産業クラスター

〒669-2397 兵庫県篠山市北新町 41

篠山市役所 まちづくり部 企業振興課

TEL 079-552-1111 FAX 079-552-2090

農業生産法人 有限会社 みたけの里舎

〒669-2308 兵庫県篠山市和田 217

TEL 079-552-2938 FAX 079-552-5603

農産加工施設 舎良房（しゃらぼー）ささやま

〒669-2308 兵庫県篠山市和田榊の坪 41

TEL 079-552-1616 FAX 079-552-1622

（文：社団法人食品需給研究センター 長谷川 潤一）